



市民主体の行政

中央図書館、A館への移転反対
採算性の低い事業の見直し

教育

教育現場への人材投入
給食の無償化

女性活躍

女性の正規雇用化
安定した給与の確保

安心して住める町

高齢者、子どもの見守り体制の整備
地域コミュニティへの人材投入

くわた 恭子

広島市議会議員《無所属》

今を生きる私達、未来を生きる子ども達のため
何が本当に必要な事業なのかしっかりと見極める
市民主体の行政を目指してまいります。



くわた恭子通信

<http://kyoko.moo.jp>
zxkyoko@yahoo.co.jp

《無所属》



地域の皆様、お世話になります。市議会議員くわた恭子です。平成15年の初当選以来、20年の活動を支援いただきありがとうございます。

スローガンは、当初から変わらず「新しい風」としています。時代の変化に敏感に、民間の感覚を忘れない。期日数を重ねても新鮮な議員でありたいと思っています。

広島市議会、河井天喜の金権選挙事件で信頼を無くし、6人の議員が辞職、6人が裁判中です。

有権者の皆様、県議会が再び無投票の盛り上がり選挙かもしれないですが、それぞれの候補者をよく見て頂き、是非、投票していただきましょう。お原稿を致します。

中央図書館移転反対の修正案を提案/否決されました

令和5年度の当初予算は、約6696億円、新交通/アストラムライン延伸の事業はじめ、納得のいかない予算もありますが、中央図書館をエールエールA館に移転する予算額、約3億円の予算を削除する修正案を令和4年度に続き、今回も提案しました。結果は修正案賛成が19人、反対が27人で、移転の予算が可決してしまいましたが、根強い反対があること、強引な行運営であることを示すため、修正案を提案致しました。

修正案の提案理由です

令和4年度、中央図書館等移転の予算には全会一致の付帯決議が付いたが守られてはいない。移転整備は、①現地建て替え②中央公園での移転③A館への移転の3案の詳細な比較を示すとしたが、②は不可能と①と③の比較のみであったが決して不可能ではない。

また、中央図書館の核である浅野文庫、文学資料を中央図書館以外の場所に別途設けるとの答弁だが予算総額が示されず、現在提案の予算では比較が難しい。さらに、現在においても移転反対の請願が出されており、市民の理解は得られていない。

付帯決議は、利用者、有識者に丁寧に説明し、理解を得る事としているが、市の認識は、比較検討資料を作成し、関係者に説明する手続きが課せられたと理解する状況を作るという事で納得とは別であると答弁した。傲慢な行政運営。とても危険である

くわた恭子 プロフィール

- 1961 (昭和36) 年11月、東広島市生まれ
県立賀茂高校卒業
京都芸術短期大学卒業
- 1982 (昭和57) 年 株式会社天満屋入社
- 1986 (昭和61) 年結婚、子育てをする中
彩が丘小学校PTA会長
彩が丘学区子ども会会長を務める。
- 2019 (平成31) 年、広島市議会議員4期目当選
- 現在 広島市議会議員
佐伯区子ども会連合会 副会長
彩が丘学区子ども会 育成指導員
彩が丘パトロール隊 隊長
保護司
- 趣味 ガーデニング
(彩が丘ガーデニングクラブ主催)

